

市政トピックス

新本庁舎建設 ニュースNo. 3



基礎工事：基礎コンクリートの打ち込みが進んでいます

工事は、A工区からE工区まで5つの工区に分けて進められています。A工区では基礎のコンクリートの打ち込みが終わり、梁の型枠が設置されています。使われるコンクリートは、通常より硬い製品が使われています。別の工区では、柱や梁の鉄筋を組んでいます。あらかじめ組み立てられた柱の鉄筋を大型クレーンでつり上げて64カ所に配置します。大型クレーンは、腕の長さが50メートルあり、建物の中央まで届くように東西に1台ずつ配置されています。



基礎工事の様子（7月5日）

●第1回工事現場見学会を開催

市では市民の皆さんを対象に現場見学会を6月30日に開催しました。当日は40人が参加。市職員と工事現場責任者が工事概要について説明しました。参加した皆さんは耐震性や使われている資材について担当者に質問をしていました。第2回見学会は11月ころを予定していますので皆さんご参加ください。



本庁舎内庁舎建設推進課
☎71・2000(代) ☎71・5000

■協働で築く地域福祉 地域福祉シンポジウム開催

3月に策定された第2期地域福祉計画について理解を深め、地域福祉の推進を図るため、地域福祉シンポジウムを6月29日、豊科公民館で開催しました。シンポジウムでは、市民の皆さんなど約600人が参加。基調講演では、松本大学総合経営学部教授の尻無浜博幸さんが計画実現のためのポイントについて講演しました。また、計画策定に携わった皆さんによるパネルディスカッションも行われ、それぞれの立場から意見が交わされました。

尻無浜さんは、「地域福祉の主役は住民の皆さん。地域の課題を、行政や社会福祉協議会等と連携して解決していくことが大切」と会場に呼び掛けました。地域福祉とは、地域住民の皆さんと社会福祉関係者が協力



「地域福祉の主役は市民」と話す尻無浜教授

し、生活上の困りごとや地域の課題を解決するための取り組みです。市では、地域との協働を進めながら、地域福祉の推進を図っていきます。

公平委員会 新委員が就任



大久保睦男さんが退任し、曾根原幸人さん（豊科高家）（写真）が就任しました。任期は6月26日から平成25年12月21日までです。

■松くい虫被害対策 無人ヘリコプターで薬剤を空中散布

市では6月20日、松くい虫による「松枯れ」を防ぐため、無人ヘリコプターによる薬剤散布を大口沢区で初めて行いました。当日は市内で大きな被害が確認された同区内豊科葬祭センター周辺の山林約25ヘクタールで、野菜や水稲にも使用される「ネオニコチノイド系」の農薬を散布しました。

松くい虫被害は、カミキリムシが媒介する「マツノザイセンチュウ」がマツを枯らす病気の一種で、市内では平成18年ころから豊科・明科両地域の山林を中心に拡大しており、平成24年度は被害本数が約4300本報告されています。市では、この

被害対策として殺虫剤の樹幹注入や、被害木の伐採処理、アカマツ以外の樹種転換などをこれまでに行っていました。被害範囲が広範囲におよぶため、今回、無人ヘリコプターによる薬剤散布を行ったものです。今後、効果や環境などへの影響について検証します。



無人ヘリコプターによる薬剤散布（6月20日）

■県民豊科運動広場 改修・拡張工事が完了

県民豊科運動広場（豊科南穂高）の改修・拡張工事のしゅん工式が6月8日、現地で行われました。

同施設は、昭和53年に長野県の整備事業として造成されましたが、施設の老朽化のほか利用者からはさまざまな改善要望が寄せられていました。こうしたことから今回の工事では、グラ

ウンド部分を拡張し、野球2面分の広さを確保したほか、駐車場の整備やフェンスの改修、照明灯の増設、多目的トイレも整備しました。また、グラウンド周囲の道路も幅6メートルに拡張整備し、大規模災害時はヘリコプターの離発着場所として使用できるようになっています。事業費は約2億9600万円で、主な



しゅん工式後の始球式の様子（投手：高山市議会議長、打者：宮澤市長）

財源に一般財源のほか、合併特例債やスポーツ振興くじ助成金を活用しています。

宮澤市長はあいさつで「多くの市民の皆さんが利用し、スポーツを通じて健康長寿のまちづくりが進むよう期待しています」と話しました。